

# 下水汚泥焼却灰のこれまでの経緯と今後の対応(案)について

## 1 これまでの経緯

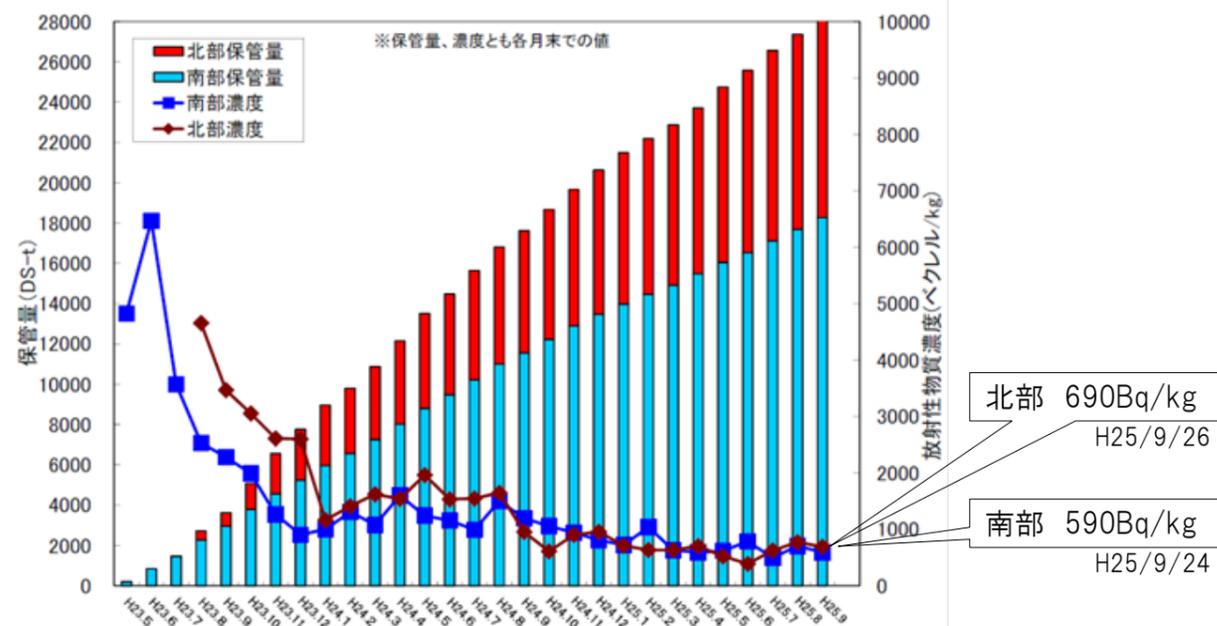
- ① 平成23年9月9日 南本牧最終処分場への埋立てを発表  
下水汚泥焼却灰の埋立てについて安全性確認→9月15日以降に埋立て開始を発表。
- ② 平成23年9月14日 南本牧最終処分場への埋立てを凍結  
関係者の皆様に説明不十分であったため、十分なお説明を行うまでの間、埋立てを「凍結」。
- ③ 市民・関係者への説明状況  
「管理型処分場への下水汚泥焼却灰の埋立てに関する安全評価検討書」※の内容を分かりやすく説明した資料を用いて、市民・関係者へ説明。

	凍結経緯・焼却灰の状況等の説明や施設の見学
地元等関係者	63回

※ 別紙1「安全評価検討書の概要」参照

## 2 下水汚泥焼却灰の状況

- ① 保管している下水汚泥焼却灰の放射性物質濃度と保管量



- ② 焼却灰の場内保管状況(平成25年9月末現在)

北部汚泥資源化センター

保管量 9,900トン

南部汚泥資源化センター

保管量 18,300トン

発生した焼却灰は、フレコンバッグに詰めて、安全に保管しています。フレコンバッグは収納効率を上げるために、コンテナに収納し、コンテナを2段積みにして保管しています。効率的に保管していますが、平成25年度末で保管スペースがなくなります。

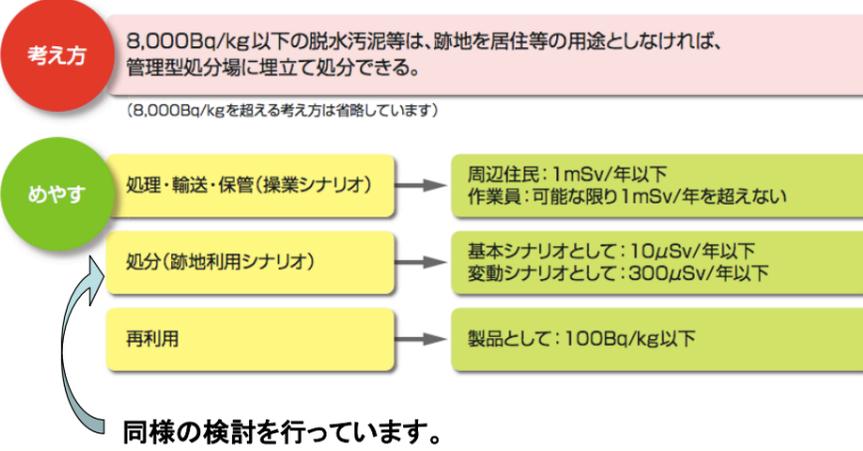
## 3 今後の対応(案)

- ① 第一段階として、今後、日々発生する汚泥焼却灰の埋立てを検討します。
  - ・ 最近の汚泥焼却灰は放射性物質濃度が低下しており、更に安全性が増しています。
  - ・ 南本牧最終処分場の陸上部分を活用し、埋立て場所を特定します。
 →別紙2「埋立て処分についての具体的考え方(案)」参照
- ② 現在保管している焼却灰については、周辺への影響をモニタリングしながら今後検討します。
- ③ 下水汚泥を資源として有効利用します。
  - セメント原料としての有効利用や、その他様々な有効利用(改良土事業の継続、汚泥燃料化事業など)について検討や推進を引き続き行っていきます。

# 安全評価検討書の概要

## 処分等の「考え方」と「めやす」

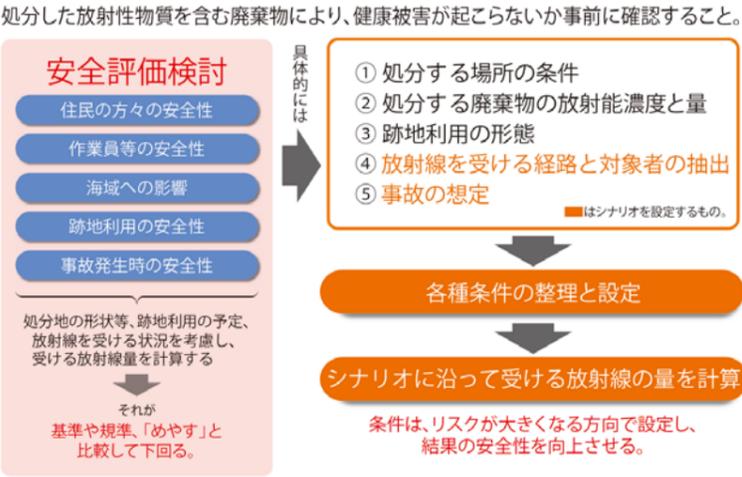
国は、放射性物質を含む下水汚泥焼却灰等の「処理」「運搬」「保管」「処分」そして「再利用」について、「考え方」と「めやす」を示した。



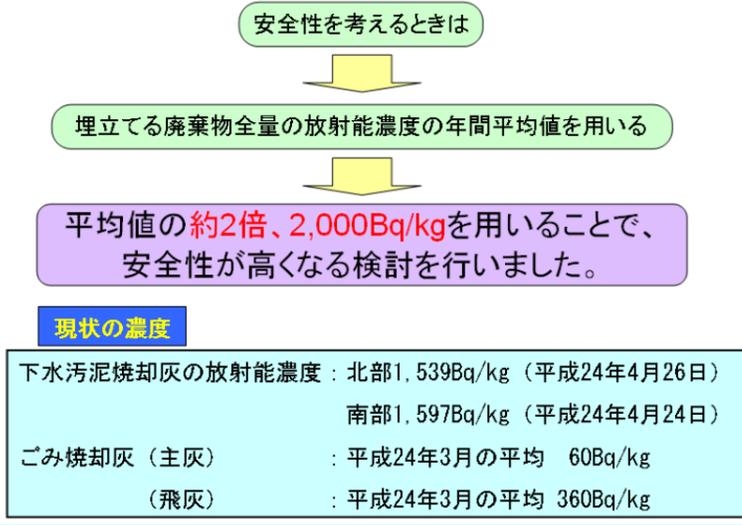
今回の説明

## この安全評価検討は平成 23 年9月に実施したものです

### 安全評価の考え方



### 廃棄物の放射性濃度



## 埋立作業時の安全の考え方

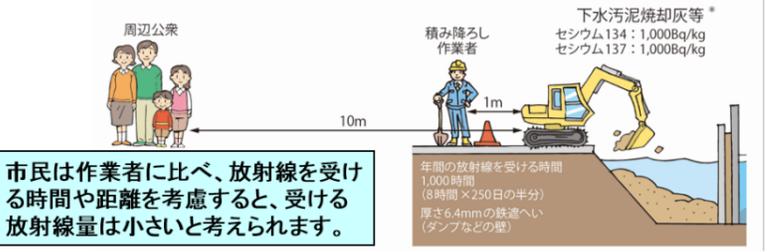
国が示した

管理型処分場に処分可能な8,000Bq/kgとは

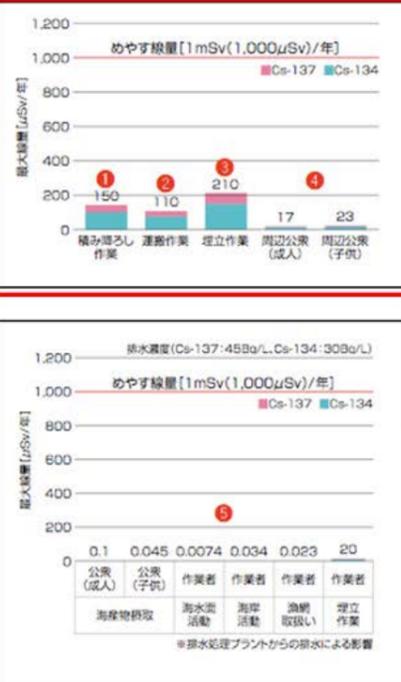
8,000Bq/kgの廃棄物を埋立処分する場合の作業員が受ける放射線量

0.78mSv/年 < 1mSv/年 (ICRP 2007勧告)

【条件】  
1日8時間勤務のうち4時間、年250日、放射性廃棄物から1mの距離で作業を実施



### 評価結果



### 評価対象イメージ



この資料は安全評価検討書について、市民・関係者の皆様に理解していただくために作成した「放射性物質を含む下水汚泥焼却灰等の安全性について (安全評価検討書の説明資料について)」の概要です。

